三月十二日 七年

醫制[illegible]先ツ三府ニ於テ徐々著手セシム

文部省上申

去六月中醫制取調被仰出別冊編成仕候從來醫術ノ儀ハ古昔ヨリ一定ノ法制無之其弊習深ク人心ニ浸淫シ一時ニ收拾難致殊ニ醫師等級診察料等ニ至リテハ醫俗トモ目前ノ不便ニ係リ規則ニ堪兼候事情モ有之候ヘ共醫師自ラ藥ヲ鬻キ候ヨリ今日百端ノ弊害ヲ釀候ニ付此一事ヲ閣キ候テハ醫制ノ要領相立不申依之先ツ三府ニ於テ醫俗ノ事情ヲ斟酌シ診察料ヲ定メ自ラ藥ヲ鬻ク者ヲ禁スル等徐々著手致シ各地方ハ其官員ニ委子便利ノ處ヲ為中出具折ヲ以テ規則ニ照シ逐次施行イタシ以テ後進成學ノ日ヲ

期候様有之度ク諸規則中即今難被行モノハ其條下ニ當分ノ處分ヲ附記致候ヘ𪜈尚實際ニ至テハ其運用順序一々記載難致臨時閑申可仕此段附シテ申上候也六年十二月廿七日文部医制取調達六年病院ニ載ス

上申ノ趣先以三府ニ於テ醫俗ノ事情爲ト斟酌ノ上實際障碍無之様徐々着手可致其他各地方ノ儀ハ當分可見合事三月十二日

醫制

第一條　全國ノ醫政ハ之ヲ文部省ニ統フ

第二條　醫政ハ即人民ノ健康ヲ保護シ疾病ヲ療治シ及ヒ其學ヲ興隆スル所以ノ事務トス

第三條　文部省醫務局中ニ醫監副醫監ヲ置キ專ラ醫政ヲ擔任セシム

下ノ衛生ノ下脱クハ脱字アラン

第四條　全國内ニ衛生局七所ヲ設ケ大中少ノ衛生ヲ置キ文部省ノ旨趣ヲ奉シテ地方官ト協議シ其區中一切ノ醫務ヲ管理セシム

但海陸軍陣病院ノ事務ハ此限ニ非ス

第五條　各地方ニ於テ醫務ニ關スル事件ハ總テ衛生局ト協議スヘシ

第六條　地方官ニ於テ醫務掛ノ吏員一二名ヲ置キ管内ノ醫務ヲ掌ラシム其人名ハ逐テ文部省ニ衛生局ニ屆ケ置クヘシ

但地方官員ヨリ兼任タルヘシ

第七條　地方ノ醫師及ヒ藥舗主家畜醫等ヲ撰テ醫務取締トナシ衛生局地方官ノ差圖ヲ受ケ部内日常

ノ醫務ヲ取扱ハシハ

第八條　醫務取締ハ醫師藥舗主等ヨリ出ス所ノ書類ヲ集ノ毎年兩度二月七月中衛生局ニ出スヘシ但シ臨時ノ願伺等ハ其時々地方官衛生局ニ出スヘシ

醫務取締ハ各地ノ習俗并ニ衣食住等ノ了ニ付現ニ健康ヲ害スルコトアルヲ察セハ衛生局ニ申シ出ツヘシ

又流行病アリテ醫師ヨリ届出タル時ハ病性ノ善惡流行ノ緩急ヲ察シ速ニ衛生局或ニ地方官ニ届クヘシ

第九條　衛生局ノ長ハ區内ノ醫務ヲ任スト雖ヒ大事ハ地方官學長院長等ト議シテ其事實ヲ具シ決ヲ文部省ニ取ヘシ

第十條　衛生局ノ長ハ學長院長及ヒ醫務取締等ヨリ出ス所ノ書類ヲ集メ前半年施行セシ醫務ノ得失醫學校病院ノ盛衰醫師藥舗等ノ學術行狀ヲ察シテ之ヲ記シ且ツ區内人民ノ生死表ヲ製シ後チ半年施設スヘキ目的費用ヲ附シテ毎年二度四月九月中之ヲ醫監ニ申送スヘシ

所轄ノ地方ニ流行病アリテ醫務取締ヨリ届出タル時ハ衛生局長急ニ醫務取締及ヒ地方ノ大醫碩學ヲ會シテ預防救治ノ方法ヲ議シ之ヲ文部省及ヒ近隣ノ府縣ニ報告スヘシ

第十一條　醫監副醫監ハ全國ノ醫師藥舗主及ヒ醫學校病院等ヲ總括シ醫政施設ノ得失ヲ勘察シテ事務ノ順序ヲ定メ其費用ヲ算シテ文部卿ニ啓ス

国立公文書館
National Archives of Japan

○第一醫學校

第十二條　各大學區ニ醫學校一所ヲ置キ病院ヲ屬ス

（當分）東京長崎二所ニ設ケ其他ハ地方ノ便宜ヲ度リ漸ヲ以テ設立ス

第十三條　醫學校ハ預科三年本科五年ヲ以テ學課ノ滿期ト定ム

預科入學ハ十四歲以上十八歲以下ニシテ小學卒學ノ證書ヲ所持スル者ヲ撰ビ躰質ヲ檢シテ之ヲ許ス

但シ證書ヲ所持スル者ト雖モ教師學長ノ意見ニ因リ更ニ小學科ノ内醫學ニ緊要ナル數科ヲ撰スルコトアルヘシ

入學免許ノ時期ハ毎年二次其月日ヲ定メ三ヶ月前之ヲ報告スヘシ

豫科課目

〔甲〕數學

〔乙〕獨逸語學

〔丙〕羅甸語學

〔丁〕理學

〔戊〕化學

〔己〕植物學大意

〔庚〕動物學及ヒ鑛物學ノ大意

右ノ學科ヲ卒ル後ハ大試業ヲ遂ケ豫科卒業ノ證書ヲ與ヘテ本科ニ入ラシム（此試業ヲ本科入學試業トス）

（當分）二十歲以下ノ生徒ヲ撰ビ中小學ノ數科中（讀書算術外國語學及ヒ理化學ノ大意等）其學ヒタル所ニ就テ之ヲ試業

シ年齡體質ヲ較量シオカノ當否ヲ察シテ豫科入學ヲ許スヘシ

第十四條　本科入學ハ二十五歲以下ニシテ豫科卒業ノ證書ヲ所持スル者ニアラサレハ之ヲ許サス

他ノ學校ヨリ轉シテ本科入學ヲ請フ者ハ役來所就ノ學長ヨリ其趣意及ヒ本人ノ屬籍姓名年齡ヲ詳記シテ其入ラント欲スル所ノ學長ニ送ルヘシ

本科入學ノ試業ハ每年二次醫學校所在ノ地ニ開キ醫監學長教官等五人乃至七人ヲ以テ試業掛トシ醫監學長ノ內一人ヲ以テ其會長トス但シ會長及ヒ試業掛ノ人員ハ開場每ニ文部卿之ヲ命ス

會長ハ地方ノ大醫碩學ヲ請ヒ試業ニ與カラシムルノ權アルヘシ

試業ノ時日場所ハ三ケ月前文部省ヨリ報告スヘシ

（當分）本科入學ヲ請フ者ハ二十五歲以下ニシテ數學獨逸語學羅甸語學及ヒ理化學大意ノ試業ヲ遂ケシヲ許ス（各大區ノ醫學校ハ其所置ヲ除ニス第十五條（當分）ノ條ヲ參考スヘシ）

本科課目

甲　解剖學
乙　生理學
丙　病理學
丁　藥劑學
戊　內科
己　外科
庚　分法醫學（裁判醫學及ヒ鑑定法ヲ謂フ）

右ノ學科ヲ卒フル後ハ大試業ヲ遂ケ醫學卒業ノ證

国立公文書館
National Archives of Japan

書并ニ醫學士ノ稱號ヲ與フ條ニ試業ノ法前ニ同シ

第十五條　第一大學區醫學校ニハ專門局ヲ屬シ醫學卒業ノ證書ヲ得タル者殊ニ一科ニ志シ其才器大成スヘキ者ヲ選ヒ學費ヲ給シテ之ヲ入ル

專門ノ科目

解剖科
生理科
病理科
藥劑科
內治科
外治科
公法醫學科

此外家畜醫學校一所ヲ屬ス

（當分）專門局ノ設ナシト雖モ第一大學區醫學校ニハ各科專任ノ外國教師一人宛ヲ置キ專ラ其業ヲ講修セシム

各大學區ノ醫學校豫科ノ學問ニ於テハ第一大學區醫學校ト差別ナカルヘシト雖モ本科ニ至テ或ハ其期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

地方病院ニテ醫學ヲ教授スル者本科入學ハ當分學科ノ試業要セス從來醫ヲ業トセシ者ハ其長ノ見計ノ以テ員外ノ生徒トシ豫科ヲ經スシテ直チニ本科入學ヲ許スコトアルヘシ

右ノ病院ハ入學ノ生徒ニ限ラス偏ク醫生ノ出席ヲ許スヿアルヘシ

第十六條　入學ノ生徒ハ學長ノ許可ヲ得ルニ非サ

レハ妄ニ出入スルヲ許サス（第十三條以下ハ各地醫學校病院ノ規則ヲ參考スヘシ）

第十七條　貸費生ハ毎年兩度別段ノ試業ヲ設ケ從來修メタル所ノ學科ヲ檢シ其撰ニ當ラサル者ハ之ヲ除クヘシ

第十八條　受業料ハ毎一期（六ケ月ヲ一期トス）開講前一時ニ之ヲ納ムヘシ

事宜ニヨリ受業料ヲ增減セント欲スル時ハ學長衛生局協議ヲ遂ケ文部省ニ開申シテ半年前之ヲ報告スヘシ

第十九條　官費ノ病院ハ醫學校ニ屬スルモノニ限ルヘシ

第二十條　醫學校附屬ノ病院ハ院長（或ハ副院長）當直醫師藥局長以下ヲ置クヘシ但シ其員數ハ院長其學長ニ議シ衛生局地方官ノ協議ヲ以テ文部省ニテ之ヲ定ム

第二十一條　院長ハ公私病院ニ拘ラス醫術開業免狀（第三十七條）ヲ所持スル者ニ非サレハ其職ニ任スルヲ許サス

（當分）本科課目ノ大意ニ通スル者ヲ撰テ之ヲ任ス

第二十二條　醫學校附屬病院ノ院長ハ專任或ハ學長副學長ヨリ兼勤スルコトアルヘシ

第二十三條　院長ハ公私病院ニ拘ラス毎半年間療スル所ノ病客ノ員數治癒死亡病名等ノ明細表ヲ製シ毎年兩度二月七月中衛生局及ヒ地方廳ニ出タスヘシ

又難病奇患ノ始末及諸經驗等ヲ詳記シ教師及ヒ自己ノ意見ヲ附シテ文部省ニ出スヘシ

第二十四條　醫學校ニ屬スル病院ノ費用ハ地方ヨリ其幾分ヲ給スヘシ

但シ入院料藥種料ハ院長其學長地方官及ヒ衛生局ニ議シ文部省ニ申達シテ之ヲ定ム

當分入院ノ病客ヲ分テ三等或ハ五等トシ地方ノ便宜ニ應シテ每等相應ノ入院料ヲ收ム極メテ貧窮ニシテ其實證アルモノハ納金ニ及ハス（各地病院ノ規則ヲ參考スヘシ）

但シ此病院ハ診察料ヲ收ムヘカラス

第二十五條　一府縣或ハ有志ノ人民協同シテ病院ヲ建設セント欲スル時ハ先ツ發起人社中ノ人員醫師教員ノ屬籍姓名履歷及ヒ會社ノ方法資金ノ緣由保續ノ目的ヲ記シ學問ノ課程病室藥局ノ規則ヲ附シテ地方官ニ出シ地方官之ヲ衛生局ニ議シテ文部省ニ達シ以テ許可ヲ受クヘシ

諸省使察等ニテ病院ヲ設クル者ハ醫師藥局掛ノ屬籍姓名履歷及ヒ院內ノ諸規則ヲ記シ其長官ヨリ文部省ニ議スヘシ病院ハ學科ノ條目醫師教員ノ撰舉等、總テ醫學校及ヒ附屬病院ノ規則ニ準フヘシト雖モ地方ノ情態ニヨリ一時照準シ難キモノハ其情實ヲ記シテ文部省ニ開申スヘシ

第二十六條　黴毒院癲狂院等各種病院設立ノ方法ハ皆前條ニ則トルヘシ

○第二　教員（附外國教師）

第二十七條　凡ソ教員タルモノ醫學校ハ勿論病院私塾ト雖ヒ必ス教授免狀ヲ所持スヘシ但シ三人以下ノ子弟ヲ教フル者ハ此例ニアラス

教授免狀ハ醫學卒業ノ證書或ハ其專修ノ一科若クハ數科ノ卒業證書ニ行狀證書（從來所就ノ學長若クハ二年來所任ノ地方官ヨリ出スヲ添ヘ衛生局ニ出シ之ヲ受クヘシ）

但シ衛生局ニテ異見アル時ハ更ニ其學科ヲ試業スルヿアルヘシ

（現今）教員ノ職ニアルモノハ試業ヲ要セス

第二十八條　教官（醫學校ニテ教員トナルモノヲ稱ス）ノ撰任ハ學士ノ中ニ於テ其學科ニ卓越シタル者ヲ採用ス

（醫制發行後凡ソ十年ノ間）教官ヲ撰用スルニハ其專任ノ科目ニ三條ヲ撿査スヘシ

第二十九條　教官中ノ一人ヲ推シテ學長トシ學校一切ノ事務ヲ掌ラシムム

學長ハ醫監ノ撰舉ヲ以テ文部卿之ヲ命ス

學長ハ躬ラ教場ニ臨ミ教導ノ躰裁教官生徒ノ勤怠進否ヲ察シ全校ノ風儀ヲ整ルヲ以テ旨トス

學校ノ事務ニ付學長新ニ施行セントスル（欲）コトアラハ必ス先ツ衛生局ニ議シ大事ハ決ヲ文部卿ニ取ルヘシ

學長ノ議若シ醫監ニ協ハサル時ハ直チニ文部卿ニ申出スルヲ得ヘシ

學長ニハ在職中學校内ニ於テ一宇ノ居家ヲ給スヘシ若シ校内ニ相應ノ場所ナキ時ハ接近ノ地ニ於テ之ヲ給ス

第三十條　學長ハ前半年間修ムル所ノ學科ノ商係生徒ノ員數階級等明細表ヲ製シ後半年ノ課程ヲ記シ別ニ學校ノ事務ニツキ自己ノ意見アルモノハ之ヲ附シテ毎年兩度二月七月中衛生局ニ送ルヘシ

病院私塾ニテ醫學ヲ教授スルモノモ亦右ニ同シ

第三十一條　教官ノ員數及ヒ褒貶黜陟ハ醫監學長ノ協議ヲ以テ文部卿之ヲ定ム

教官建議スル所アラハ必ス學長ニ申白スヘシ但シ學校ノ事ニ付文部卿及ヒ醫官ヨリ訊問スル時ハ其意衷ヲ悉スヘシ

第三十二條　學長院長教員タルモノハ醫學校病院及ヒ私塾ヲ論セス或ハ懶惰ニシテ職務ヲ怠リ或ハ商賈ニ通シテ奸利ヲ謀ル等經テ不行跡アル時ハ免狀ヲ取揚ケ教授ヲ禁シ其地方及ヒ文部省ニテ其事由ヲ報告スヘシ

第三十三條　外國教師ハ免狀（預科教師ハ中學教授免狀本科教師ハ開業者免狀）所持ノ書ニアラサレハ雇入ルヽヲ許サス

但シ第一大學區醫學校ノ教師ハ右ノ免狀ヲ所持スルハ勿論親シク專門學科ヲ教授シタル者ヲ撰フヘシ

第三十四條　外國教師全國ノ醫政學校ノ課程ニツキ建議スルコトアラハ必ス先ツ其學長ニ議シ學長コリ醫監ニ開申スヘシ

第三十五條　外國教師ノ給料ハ一ヶ月四百圓ヲ越ユヘカラス

但シ第一大學區醫學校ニ於テ有名ノ碩學ヲ雇フ

時ハ此限ニアラサルヘシ

滿期歸國ノ時ニ臨ミ其勤勞ニ應シ醫監學長ノ協議ヲ以テ文部卿ニ申白シ褒賞ヲ與フルヿアルヘシ

第三十六條　地方病院ニテ外國教師ヲ雇フ時ハ此規則及ニ文部省教師雇入條約規則書ヲ參攷シテ條約擬案ヲ製シ文部省ニ出シテ許可ヲ受ケ然ル後條約ヲ結フヘシ

但シ教師到着ノ上ハ必ス所持ノ免狀ヲ衛生局ニ出シテ點檢ヲ受クヘシ

（當分）在來ノ教師免狀ヲ所持セサル者アラハ更ニ雇繼ヲ許サス

○第三　醫師

第三十七條　醫師ハ醫學卒業ノ證書及ヒ內科外科眼科産科等專門ノ科目二箇年以上實檢ノ證書（從來所就ノ院長或ハ醫師ヨリ出スモノトス）ヲ所持スル者ヲ檢シ免狀ヲ與ヘテ開業ヲ許ス

（當分）從來開業ノ醫師ハ學術ノ試業ヲ要セス唯其履歷ト治績トヲ較量シ姑ク之ヲ二等ニ分テ假免狀ヲ授ク

（醫制發行後凡ソ十年ノ間）ニ開業ヲ請フモノハ左ノ試業ヲ經テ免狀ヲ受クヘシ

〔甲〕解剖學大意

〔乙〕生理學大意

〔丙〕病理學大意

〔丁〕藥劑學大意

国立公文書館
National Archives of Japan

〔戊〕内外科大意

〔己〕病状處方及手術

即今開業ノ假免狀ヲ得タルモノト雖モ三十歳以下ノ者ハ毎三年必ス右ノ試業ヲ遂ケ其免狀ヲ受クヘシ但シ篤志ノ者ハ年齡ニ拘ハラス試業ヲ請フヲ得ヘシ

産科眼科整骨科及口中科等專ラ一科ヲ修ムル者ハ各其局部ノ解剖生理病理及ヒ手術ヲ檢シテ免狀ヲ授ク

種痘ハ天然痘病理治方ノ梗畧及ヒ牛痘ノ性狀種法ヲ心得タルモノヲ檢シ假免狀ヲ與ヘテ施術ヲ許ス牛痘種法條例別冊アリ

第三十八條　海陸軍ノ醫員ハ醫學卒業ノ證書ヲ所持スルモノタルヘシ

當分　海陸軍醫ヲ採用スルニハ各其方法アルヘシト雖モ軍醫監必ス醫監ニ協議シテ其等級ヲ定ムルヲ法トス

第三十九條　典醫侍醫モ亦前條ニ同シ

第四十條　開業免狀ヲ所持セスシテ病客ニ處方書ヲ與ヘ手術ヲ施ス者ハ科ノ輕重ニ應シテ其處分アルヘシ

第四十一條　醫師タル者ハ自ラ藥ヲ鬻クコトヲ禁ス醫師ハ處方書ヲ病家ニ附與シ相當ノ診察料ヲ受クヘシ

當分　診察科ハ各地方ノ貧富人口ノ疎密路程ノ遠近等ニ從テ自ラ差別ナキヲ得ス故ニ先ツ衛生局

ニテ其大畧ヲ取調地方官ト協議シ便宜ニ應シテ之ヲ定ムヘシ

外科眼科産科口中科等ハ手術ノ大小難易ニ由テ其科ヲ定ムヘシ

時宜ニヨリ診察料手術料ヲ増減スル時ハ衛生局地方官協議ノ上文部省ノ許可ヲ得テ之ヲ報告スヘシ

二等醫師ハ願ニヨリ藥舗開業ノ假免狀ヲ授ケ調藥ヲ許ス

調藥兼帶ノ醫師ハ他醫ヨリ處方書ヲ授スルコトヲヲハ叮嚀ニ調合シ毫モ私意ヲ加ヘス第六十一條第六十三條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條及ヒ第六十九條ノ規則ヲ守リ藥舗主ノ所業ニ殊ナルヿナカルヘシ

調藥兼帶ノ醫師ハ處方書調劑ノ外ハ藥種ノ販賣及ヒ賣藥（丸藥散藥膏藥煉藥等ノ如キ調劑ニシテ醫家ノ方箋ニ據ラス諸人ノ需ニ應シテ販賣スルモノヲ謂フ）ヲ禁ス

第四十二條　處方書ニハ病人ノ姓名年齡病名藥劑分量用法ヲ記シ其下ニ年月日及ヒ醫師ノ姓名ヲ書シテ印ヲ押スヘシ

第四十三條　醫師私カニ藥劑ヲ鬻キ或ハ藥舗ニ通シテ奸利ヲ謀ルモノハ開業ヲ禁シ文部省及ヒ地方廳ニテ其事由ヲ報告スヘシ

第四十四條　醫師行狀正シカラス或ハ懶惰ニシテ業ヲ怠リ危急ノ用ニ達セサル時ハ醫務取締區戸長ノ詮議ヲ以テ地方官衛生局ニ伺ヒ醫業ヲ禁シ地方

国立公文書館
National Archives of Japan

廳ニテ其事由ヲ報告スヘシ

第四十五條　施治ノ患者死去スル時ハ醫師三日内ニ其病名経過ノ日數及ヒ死スル所以ノ原由ヲ記シ

（脚脱痘窒息等ノ類ヲ云フ）

醫務取締ニ出スヘシ

第四十六條　醫師悪性流行病（虎列刺天然痘麻疹ノ類ヲ謂フ）ルコトヲ察セハ急速醫務取締及ヒ區戸長ニ届ケヘシ

（流行病預防法別冊アリ）

第四十七條　醫師他所ニ轉シテ開業セントスル

モノハ所持ノ開業免状ヲ其地方ノ醫務取締及ヒ區戸長ニ出シテ更ニ許可ヲ受クヘシ若シ醫務取締區戸長其許可ヲ怠リ或ハ之ヲ拒ム時ハ其醫師ヨリ衛生局地方官ニ訴フヘシ

第四十八條　病家診察料ヲ送ラサル時ハ醫師ノ申立ヲ以テ醫務取締及ヒ區戸長之ヲ取立ツヘシ

第四十九條　産科醫ハ生児ノ男女死生及ヒ年月日ヲ記シテ醫務取締ニ出スヘシ

但シ流産モ三ケ月以上ノモノハ右ニ同シ

（當分）内外科ヲ論セス總テ産婦ヲ取扱フモノハ皆本條ニ準ス

第五十條　産婆ハ四十歳以上ニシテ婦人小児ノ解剖生理及ヒ病理ノ大意ニ通シ所就ノ産科醫ヨリ出ス處ノ實驗證書（産科醫ノ眼前ニテ平産十人難産二人ヲ取扱ヒタルモノ）ヲ所持スル者ヲ撰ヒ免状ヲ與フ

（當分）後来營業ノ産婆ハ其履歴ヲ質シテ假免状ヲ授ク但シ産婆ノ謝料モ第四十一條ニ同シ

（醫制發行後凡ソ十年ノ間）ニ産婆營業ヲ請フモノハ産科醫（或ハ内外科醫ヨリ出ス處ノ實驗證書本條ニヲ同シ）檢シテ免狀ヲ授ク若シ一小地方ニ於テ産婆ノ業ヲ營ムモノナキ時ハ實驗證書ヲ所持セサルモノト雖モ醫務取締ノ見計ヲ以テ假免狀ヲ授クルコトアルヘシ

第五十一條　産婆ハ産科醫或ハ内外科醫ノ差圖ヲ受ルニ非サレハ妄ニ手ヲ下スヘカラス然レトモ事實急迫ニシテ醫ヲ請フノ暇ナキ時ハ躬ラ之ヲ行フコトアルヘシ但シ産科器械ヲ用ヰルヲ禁ス且ツ此時第四十九條ノ規則ニ從ヒ其産婆ヨリ醫務取締ニ届クヘシ

第五十二條　産婆ハ方藥ヲ與フルヲ許サス

第五十三條　針治灸治ヲ業トスルモノハ内外科醫ノ差圖ヲ受ルニ非レハ施術スヘカラス若シ私カニ其術ヲ行ヒ或ハ方藥ヲ與フルモノハ其業ヲ禁シ科ノ輕重ニ應シテ處分アルヘシ

○第四　藥舗（附賣藥）

第五十四條　東京府下ニ司藥局ノ設ケ便宜ノ地方ニ其支局ヲ置キ藥品檢査及ヒ藥舗賣藥等ノ事ヲ管知ス（司藥局章程別冊アリ）

第五十五條　調藥ハ藥舗主藥舗手代及ヒ藥舗見習ニ非サレハ之ヲ許サス

但藥舗見習ハ必ス藥舗主若クハ手代ノ差圖ヲ受ケ其目前ニテ調藥スヘシ

第五十六條　藥舗見習ハ十五歲以上ノモノヲ撰ヒ

国立公文書館
National Archives of Japan

其藥舗主ヨリ醫務取締ニ屆ケテ之ヲ用フヘシ

第五十七條　藥舗手代ハ二十歳以上ニシテ豫科課目（第十三條）ノ大意及ヒ處方學ノ試業ヲ遂ケ免狀ヲ受クヘシ

（現今）其用ヲ辨スルモノハ學科ノ試業ヲ要セス

（醫制發行後凡ソ十年ノ間）ニ藥舗手代タラント欲スル者ハ算術理化學ノ大意及ヒ藥物ノ名目品類ヲ試問スヘシ

第五十八條　藥舗主タルモノハ從來所就ノ藥舗主ヨリ本人ノ二ケ年以上藥舗手代ヲ勤メタル狀ヲ具ヘ醫務取締ヨリ衛生局ニ申達シ左ノ試業ヲ經テ藥舗開業ノ免狀ヲ受クヘシ

（甲）實用化學

（乙）藥劑學大意

（丙）制藥學

（丁）毒物學

但シ製藥學校ニテ卒業證書ヲ得タルモノ又ハ醫學卒業證書ヲ所持シテ藥舗主或ハ手代タラントヲ欲スル者ハ此例ニアラス

（當分）從來藥舗主タル者ハ學術ノ試業ヲ要セス履歷明細書ニ照集シテ假免狀ヲ授ケ開業ヲ許ス

（醫制發行後凡ソ十年ノ間）ニ藥舗開業ヲ願フ者ハ左ノ試業ヲ經テ免狀ヲ受クヘシ

（甲）算術

（乙）理化學大意

（丙）藥劑學大意

国立公文書館
National Archives of Japan

丁

處方學大意

第五十九條　藥舖主及ビ手代ノ試業ハ衛生局司藥局長ノ内一人ヲ以テ會長トシ司藥局附屬ノ吏員醫務取締地方ノ醫師藥舖主等五人乃至七人ヲ撰テ試業掛トシ毎年二次之ヲ開クヘシ

試業ノ時日場所ハ三ヶ月前文部省ヨリ報告スヘシ

第六十條　新タニ藥舖ヲ開カントスル者ハ藥舖開業免狀及ビ行狀證書（從來所就ノ藥舖主或ハ二年以上所住ノ地方官ヨリ出ス）モノトスヲ醫務取締ニ出シテ其檢印ヲ受ケ屬籍姓名年齡履歷ノ明細書ヲ添ヘ地方官ニ出シ許可ヲ受クヘシ

醫務取締其檢印ヲ怠リ或ハ拒ム時ハ衛生局ニ訴フルヲ得ヘシ

第六十一條　免狀ナクシテ藥劑ヲ調合シ或ハ藥種ヲ販賣スル者ハ科ノ輕重ニ應シテ處分アルヘシ

第六十二條　藥舖ニハ精微ノ秤量器及ビ日本藥局方中ノ藥品純精ナルモノヲ撰テ之ヲ備ヘ缺ヒアラシムヘカラス（日本藥局方別冊アリ）

第六十三條　藥舖ハ衛生局司藥局ノ吏員不意ニ檢査スルコトアルヘシ

但シ賣藥敗藥ヲ貯蓄スル者ハ其事故ヲ紀シテ相當ノ處分アルヘシ

第六十四條　藥舖主及ビ手代ハ必ス醫師ノ處方書其外一定普通ノ藥方ヲ記シテ需ルモノニ非サレハ調合スルヲ許サス

但シ單味ノ品ハ劇藥ニ非サレハ醫師ノ外タリトモ

販賣自由タルヘシ

第六十五條　醫師ヨリ授スル所ノ處方書ハ其方ニ從テ精細ニ調合シ毫モ私意ヲ加フヘカラス

第六十六條　藥舗ニテ調合シタル藥劑ハ病人ノ姓名藥名分量用法及ヒ年月日ヲ記シ印ヲ押シテ之ヲ與フヘシ

第六十七條　處方書ハ順次ニ其本書ヲ貯ヘ一ヶ月分宛一冊トシ二十年ノ間紛失スヘカラス若シ藥舗主病死或ハ事故アリテ藥舗ヲ廢スル時其處方書ヲ來子ヲ醫務取締ニ出スヘシ

但シ調藥兼帶醫師自筒ノ處方モ亦右ニ準ス

第六十八條　劇藥ハ司藥局檢印ノ品ニ非レハ調合及ヒ販賣スルヲ許サス

（當分）劇藥ニ限ラス品ニヨリテハ檢査スル事アルヘシ

第六十九條　劇藥ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外ハ同業ノ者化學家及ヒ調藥免許ノ醫師ヨリ其需要ノ旨趣ヲ詳記シタル證書ヲ以テ求ムルニ非サレハ次シテ販賣スルヲ許サス

第七十條　右ノ規則ニ準ヒ劇藥ヲ販賣スル時ハ其品ヲ固封シ印ヲ押シテ表書藥名ノ傍ニ毒ノ一字ヲ大書スヘシ

劇藥販賣ノ節ハ藥名分量年月日及ヒ賣人ノ姓名ヲ別帳ニ記シ買人ヨリ送ル所ノ證書ハ二十年間紛失スヘカラス

第七十一條　賣藥ハ其藥味分量功能用法及ヒ代價

ヲ記シ地方廳ヲ経テ衛生局ニ出シ免許ヲ受ル者ニ非サレハ調製ヲ許サス

但藥味分量等有害ノ者或ハ其功能書ニ照シテ不當ナルモノハ調製發賣ヲ禁シ或ハ之ヲ改正セシムヘシ

第七十二條　免許ヲ得スシテ賣藥ヲ製シ發賣スル者ハ藥方ヲ禁シ調製ヲ没入シ科ノ軽重ニ應シ其處分アルヘシ

第七十三條　賣藥家ハ衛生局或ハ司藥局ノ吏員等不意ニ來リ調藥ノ場ニ臨テ仔細ニ檢査スルコトアルヘシ若シ其檢査ヲ拒ミ或ハ隠匿スル等ノ所業アル者ハ賣藥ヲ禁シ相當ノ處分アルヘシ

第七十四條　配藥人賣弘所取次所及ヒ賣子等ヲ兼稱スル調藥師ヨリ其屬籍姓名年齢及ヒ開店ノ場所ヲ記シテ醫務取締ニ届クヘシ

第七十五條　凡ソ賣藥ハ調藥師并ニ配藥人ヲ合シテ一社ト有做シ調藥師ヲ社長ニ擬ス故ニ其社中價藥敗藥ヲ鬻キ或ハ仲賣スル等不正ノ所業アル時ハ藥方ヲ禁シ調劑ヲ没入シ科ノ軽重ニ應シテ處分アルヘシ

第七十六條　藥舗及ヒ調藥師配藥人ハ各一定ノ收稅アルヘシ

以上七十六條　文部

區内男女生死表

第幾番 備生局

	何府縣第幾大區第幾																	
	一月		二月		三月		四月		五月		六月		合計		一月		二月	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
出生男女																		
死亡男女																		

	一月		二月		三月		合計		一月		二月		三月	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
出生男女														
死亡男女														

醫制第十條表式

但料紙美濃紙

同大區												同第幾大區												總計	
四月		五月		六月		合計		一月		二月		三月		四月		五月		六月		合計		生	死亡
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		

四月		五月		六月		合計		一月		二月		三月		四月		五月		六月		合計			
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		

○醫制第十三條豫科卒業證書式雛形　料紙奉書四ツ切

第幾大學區醫學校印

何縣何郡何村何番戶平民華族士族

苗字名

當何月何歲何月

醫學豫科卒業候事

醫學豫科教師位氏名

同學校長位氏名

年號月日

○但シ教師外國人ナレハ其國名ヲ書シ其下ニ教師ノ名ヲ自記スヘシ以下之ニ倣フ

○醫制第十四條本科卒業證書式雛形　料紙同上

第　號大
學區醫
學校印

何府縣貫屬華士族平民
苗字名
當何月何歲何月

醫學本科卒業候事

醫學教師位氏名
同學校長位氏名

年號月日

○醫制第二十七條專門學科教授免狀書式雛形

料紙鳥ノ子紙四分四ノ折以下同シ

第　號
番　衛
生局印

何府縣貫屬華士族平民
苗字名
當何月何歲何月

何學科教授免許
候事

文部大中小衛生位氏名
省印　醫監位氏名
文部卿位氏名

年號月日

○同醫學教授免狀書式雛形

第　號
番　衛
生局印

何酒井縣貫屬華士族平民
苗字名
當何月何歲何月

醫學教授免許
候事

文部大中小衛生位氏名
醫監位氏名
省印文部卿位氏名

年月日

此免狀、專門全科卒業證書ヲ行狀證書ヲ所持シタル學力優等ノ者ニ與フルモノトス

○醫制第二十三條表式

患者明細表

明治何年何月分　第幾大學區醫學校附屬病院

入院	外來
病名	病名
人員	人員
病名	病名
人員	人員
病名	病名
人員	人員

内譯																	
在来																	
退院																	
不治																	
新入																	
治愈																	
死亡																	
総計																	
前月比較	増																
	減																

内譯																	
在来																	
退院																	
不治																	
新来																	
治愈																	
死亡																	
総計																	
前月比較	増																
	減																

醫制第三十七條醫術實驗證書式雛形　用紙美濃紙二折

何府縣貫屬華士族平民
苗字名
當何月何歳何月
何科醫術何年何月
間施療熟練候事
第壱大學區醫學校附屬
病院長位氏名印
年歳月日
第幾番
衛生局
御中

○病院ニ非サレハ其所属ノ醫師本貫屬族姓名等ノ記シ押印スヘシ

同從前開業之醫師等級辭令書式雛形　料紙奉書四ッ切以下同シ

補一二等醫師　苗字名

文部醫監位氏名

省印　文部卿位氏名

年號月日

同假免狀書式雛形

第　號

番　衛生

局　印

何縣府貫偶族平民

苗字名

當何月何歲何月

何科醫術開業免

許候事

但幾年間之事

大中小　衛生位氏名

年號月日

何科トハ內外眼產小兒整骨口中ノ七科ヲ云フ

同醫術開業免狀書式雛形

第　幾
番　衛生
局　印

何府縣貫屬華士族平民
苗字名
當何月何歳何月

何科醫術開業免
許候事

文部大小中　衛生位氏名
醫監位氏名
省印　文部卿位氏名

年號月日

此免狀ハ醫制發行後試驗ヲ經テ
開業ヲ願フモノニ與フルモノトス

同種痘假免狀雛形

第　幾
番　衛
生局印

何府縣貫屬士族平民
苗字名
當何月何歳何月

幾年間
種痘免許候事

大中小　衛生位氏名

年號月日

第四十一條處方書雛形

用紙半紙四ツ切

病名（發病年月日ヨリ經過大要）

地名
職業
男
女　何　某（當何月何歳何月）

何藥　分量　何藥　同

何藥　同　何藥　同

何藥　同

石製法用法詳細

年號月日　醫師姓名印

第四十五條患者死去屆書雛形

用紙美濃紙二ツ折

本貫屬籍地名
職業
男
女　苗字名
年齢

右何年號月日ヨリ何病ニ罹リ何々症狀ニテ幾年月日ヲ經何月日ヨリ何樣ノ危險症ニ陷リ本月何日死去致候此段及御屆候也

年號月日　屬籍地名
醫師苗字名印

醫務取締
苗字名宛

第五十條産婆營業願書式雛形　用紙美濃紙二ツ折

何府縣管下何所何村町住
某母妻或ハ姉妹
誰　年齡

私儀産婆營業志願ニ付何所何村町産科醫或ハ内外科醫何某ニ從ヒ何ヶ年間何學ノ聽講且實地施術傳習仕候間産婆營業御許可被成下度證書相添此段奉願候也

年號月日　本人　名印

右之通相違無御座候ヲ與印仕候也

醫務監督　苗字名印

第幾番　衛生局御中

同産婆實驗證書式雛形　用紙同前

何府縣管下何所何村町住
某母妻或ハ姉妹
誰　年齡

一平産幾人
一何様之難産　幾人
一何様之難産　幾人

右施術實驗仕候處相違無御座候段申上候也

何府縣貫屬華族平民
産科醫或ハ内外科醫　苗字名印

年號月日

第幾番　衛生局御中

同産婆營業免狀書式雛形

第　幾
番　衛生
局　印

何府縣管下平民
某妻或ハ妹
年齡　誰

産婆營業免許候
事

第幾番
衛生局

年號月日

用紙奉書四ツ切

○假免狀書式亦之ニ同シト雖モ但書ニ年期ヲ限リ以テ之ヲ區別ス

第五十七條藥舖開業願書式雛形

何府縣管下何郡何大區何小區何村何町住
某長男
次男
苗字名
當何月何歲何月

私儀藥舖志願ニテ何年號何月ヨリ何府何縣何某ニ從テ何學修業或ハ何府縣藥舖主何某手代相勤何學修業仕候間今般御試驗之上藥舖開業御許可被下度此段奉願候也

年號月日　本人　苗字名印

右之通相違無御座依テ奥印仕候也

父兄或ハ親戸長　苗字名印

第幾番
衛生局
御中

苗字名印

用紙美濃紙二ツ折

第五十八條 藥舖開業免狀書式雛形　用紙奉書四ツ切

第　　番　衛生局印

何縣管下何郡何區何村何町　苗字名

當何月何歳何月

藥舖開業免許候事

第幾番

衛生局

年號月日

假免狀ハ但書ニ年期ヲ限テ之ヲ別ワ

左院議案　内務課主査

別紙　文部　内務省関申ノ趣審議候處醫制取調ノ儀ハ其始ノ價藥輸入取締ノ為メ三港ニ於テ司藥局取設度旨倒出候節司藥ノ儀ハ元来醫制中ノ一部分ニ屬スヘキ者ニ付先以醫制取調上申可致旨昨年六月中御指令有之候處其後司藥局ノ一事ハ伺ニ依テ御聽許相成候折柄這回本書編成伺出候儀ニ有之依テ再應審案ヲ遂ケ候處本書醫制ノ如キハ到底御設立無之テハ民間ノ弊害不可言實ニ忽ニスヘキ者ニ有サルハ喋々ヲ待ス政府ニ於テモ人民ノ性命ヲ保護スル一欠典ナルヘシ左レトモ之ヲ施シ之ヲ行ハ人情世態ヲ斟酌セサレハ却テ多少ノ障碍ヲ生シ天下愚大愚婦ノ心ヲシテ愁苦ノ念ヲ起サシムルニ至ル現今内

地ノ景情ヲ察スルニ醫學ノ開進民知ノ開明今一層進歩スルニ非スンハ或ハ恐之ヲ施テ却テ之ヲ施サヽルニ若カサルヿアラン然ト雖モ之ヲ閣テ不行内地一般醫俗開明ノ日ヲ待モ何日カ其期ヲ得ンヤ醫俗ノ開明遍ク僻陬ニ及ハ三年五年ノ期ニアラサレハ同省申立ノ趣モ有之先ツ三府ニ於テ醫俗ノ事情ヲ斟酌シ漸次徐々ト施行候ハヽ別段實際ノ障碍モ有之マシク各地方ノ儀ハ當分御見合セ追テ時宜ニヨリ御施行有之候方可然因テ御指令案相添ヘ上陳候也三月七日文部

文部省伺

昨明治六年六月中被仰出候醫制ノ儀同十二月編成及上申置候處未タ御沙汰無之右ハ人民保護ノ大典且時機恰當ノ要件ニテ一日モ速ニ施行致度各地方ニ於テモ人心ノ所向其兆既ニ相見ヘ病院ノ私設月ニ増シ或ハ藥品鑛屬ノ真贋精粗ヲ試ミ或ハ鑛泉ヲ發明シテ其成分ヲ析ヲ請モ或ハ醫師ノ巧拙ヲ沙汰シ或ハ刑屍病屍ノ解剖ヲ出願シ或ハ種痘施術ノ法則ヲ設クル等各地各自ノ法則ヲ取調往々伺出其旨趣素ヨリ舊習ヲ一洗シ醫術ノ進歩ヲ期シ総テ衛生ノ急務一日モ不可忽儀ニハ候ヘ共隨テ願モ隨テ許サハ一區一境方法及異其際人情物議ニ關渉シ却テ醫制頒布ノ障碍ニモ可相成ニ付去夏以來府縣所出ノ願伺ハ一モ確定ノ指令難相成遷延今日ニ至リ殆シト各地人心ノ方向ヲ挫キ候次第尤賣藥檢査試藥所ノ二件ハ既ニ御決裁相成候ヘ共是亦醫制ノ枝葉

ニテ根本不立レハ其取締到底普及難致且目今本邦
醫學ノ設東京長崎ノ二校アリテ日進ノ生徒數百名
アルモ猶數年ノ薫陶ヲ不經レハ成立スル能ハス從
來地方ニ於テ名家良醫ト稱シ相應ノ學術アル者ハ
大抵官ニ奉事シ地方ニ於テハ良醫殆ント地ヲ拂ヒ
至危險ノ疾病惡性ノ流行病等ニ遭逢シ至貴ノ性命
ヲ横夭セシハル者不少人民ノ厄難却テ舊時ニ倍候
ヘヒ到底醫制ノ大本不立レハ一般醫生ノ風習ヲ改
メ學術ヲ進メ病院ノ規程藥品ノ取締等ヨリ其他百
般衛生上瑣細ノ事タリトモ施設難相成候條旁以至急
御決裁有之度此段再應相伺候也 三月二日 文部

内務課議案

別紙醫制ノ儀ニ付テノ督促書ハ既ニ本課第六號議

案ノ通御決裁相成候上ハ右ニ照準御指令相成可然
存候也 三月十二日 六号議案ハ前ニ載ス三月三日ノ案文也 文部

四月廿二日

文部省医制ヲ改正ス

文部省伺

医制ノ儀三府ニ於テ漸次着手候処実際不適宜ノ廉有之別冊ノ通リ改正イタシ度此段至急御詮議相伺候也 三月十三日 文部

伺ノ通 四月廿二日

但シ條例貼紙ノ通

医制

第一條

全國ノ医政ハ之ヲ文部省ニ統ヲ

第二條

医政ハ人民ノ疾病ヲ療治シテ健康ヲ保護スルヲ以

テ事務トス

第三條

文部省医務局中ニ医監副医監ヲ置キ専ラ医政ヲ擔任セシム

第四條

全國内ニ衛生局七所ヲ設ケ大中小ノ衛生ヲ置キ文部省ノ旨趣ヲ奉シテ地方官ト協議シ其區中一切ノ医務ヲ管理セシム

但海陸軍陣病院ノ事務ハ此限ニアラス

第五條

各地方ニ於テ医務ニ関スル事件ハ総テ衛生局ト協議スヘシ

當分衛生局完備セサル間ハ文部省ニ申出ツヘシ

第六條

地方官ニ於テ医務掛ノ吏員一二名ヲ置キ管内ノ医務ヲ掌ラシム其人名ハ兼テ文部省并ニ衛生局ニ届出ツヘシ

但シ地方官員ヨリ兼任タルヘシ

第七條

地方ノ医師及ヒ薬舗主家畜医等ヲ撰テ医務取締トナシ衛生局地方官ノ差畫ヲ受ケ部内日常ノ医務ヲ取扱ハシム

第八條

医務取締ハ医師薬舗主等ヨリ出ス所ノ書類ヲ集メ毎年両度二月七月中衛生局ニ出スヘシ但シ臨時ノ願伺等ハ其時々地方官衛生局ニ出スヘシ医務取締

国立公文書館
National Archives of Japan

ハ各地ノ習俗并ニ衣食住等ノ可ニ付現ニ健康ヲ害スルコトアルヲ察セハ衛生局ニ申出ツヘシ

又流行病アリテ医師ヨリ届出タルトキハ病症ノ善悪流行ノ緩急ヲ察シ速カニ衛生局并ニ地方官ニ届クヘシ

第九條

衛生局ノ長ハ區内ノ医務ヲ任スト雖トモ大事ハ地方官ト議シテ其事実ヲ具シ決ヲ文部省ニ取ルヘシ

第十條

衛生局ノ長ハ医務取締等ヨリ出ス所ノ書類ヲアツメ前半年施行セシ医務ノ得失病院ノ盛衰医師薬舗等ノ学術行状ヲ察シテ之ヲ記シ且ツ區内人民ノ生死表ヲ製シ後半年施設スヘキ目的費用ヲ付シテ毎年度四月九月之ヲ医監ニ申送スヘシ

所轄ノ地方ニ流行病アリテ医務取締ヨリ届出タルトキハ衛生局長急ニ医務取締及ヒ地方ノ大医硯学ヲ會シテ豫防救治ノ方法ヲ議シ之ヲ文部省及ヒ近都ノ府縣ニ報告スヘシ

第十一條

医監副医監ハ全國ノ医師薬舗主及ヒ病院等ヲ総括シ医政施設ノ得失ヲ監察シテ事務ノ順序ヲ定メ其費用ノ筭メ文部卿ニ啓ス

第一公私病院

第十二條

公立病院ノ吏員ヲ定ムルハ院長ト地方官ノ協議ヲ以テ文部省ト衛生局トヘ届出ヘシ

国立公文書館
National Archives of Japan

第十三條

院長ハ公私病院ニ拘ハラス医術開業免状（第十九條ノ所持スルモノニアラサレハ其職ニ任スルヲ許サス）

（當分）解剖生理病理藥劑内科外科公法医学ノ大意ニ通スルモノヲ撰テ之ヲ任ス

第十四條

院長ハ公私病院ニ拘ハラス毎半年間療スル所ノ病客ノ員數治愈死亡病名等ノ明細表ヲ製シ毎年両度二月七月中衛生局及ヒ地方廳ニ出スヘシ

又難病奇症ノ始末及ヒ諸經驗等ヲ詳記シテ文部省ニ出スヘシ

第十五條

公立病院ノ入院料藥劑料ハ院長其地方官及ヒ衛生局ニ議シテ之ヲ定ムルノ後文部省ニ届出ヘシ

但シ當分入院ノ病客ヲ分テ三等或ハ五等トシ地方ノ便宜ニ應ノ毎等相應ノ入院料ヲ收ム極メテ貧窮ナルモノハ納金セシメサルヿアルヘシ（各地病院ノ規則ヲ參考スヘシ）

第十六條

一府縣或ハ有志ノ人民協同シテ病院ヲ建設セントス欲スル時ハ先ツ發起人社中ノ人員医師ノ履籍氏名履歴及ヒ會社ノ方法資金ノ緣由係續ノ目的ヲ記シ治療ノ課程病室藥局ノ規則ヲ付シテ地方官ニ出シ地方官之ヲ衛生局ニ議シテ文部省ニ達シ以テ許可ヲ受クヘシ

諸省使寮等ニテ病院ヲ設クル者ハ医師藥局掛ノ

屬籍氏名履歴及ヒ院内ノ諸規則ヲ記シ其長官ヨリ文部省ニ議スヘシ

海陸軍ノ外私立病院諸規則ハ公立病院ノ規則ニ照準スヘシト雖一時照準シカタキモノハ其情実ヲ記シテ文部省ニ開申スヘシ癲癇院癲狂院等合稚病院設立ノ方法ハ別冊アリ

第十七條

公立病院ノ院長及ヒ医員タル者或ハ嶺悟ニシテ職務ヲ怠リ或ハ高貴ニ通メ奸利ヲ謀ル等總テ不行跡アル時ハ免状ヲ取揚ケ其地方及ヒ文部省ニヲ其事由ヲ報告スヘシ

第十八條

公私病院ニテ外國医師ヲ雇フトキハ條約按ヲ製シ文部省ニ出シテ許可ヲ受ケ然ル後條約ヲ結フヘシ

但シ医師到着ノ上ハ必ス所持ノ免状ヲ衛生局ニ出シテ點檢ヲ受クヘシ

(當分)在来ノ医師免状ヲ所持セサルモノアラハ更ニ雇継ヲ許サス

第二医師

第十九條

医師ハ医学卒業ノ証書及ヒ内科外科眼科産科等專門ノ科目二ケ年以上実験ノ証書(従来所就ノ院長或ハ医師ヨリ出スモノヲ所持スル者ヲ撿シ免状ヲ與ヘテ開業ヲ許ス

(當分)従来開業ノ医師ハ学術ノ試業ヲ要セス唯

其履歴ト治績等ヲ較量シ姑ク之ヲ二等ニ分テ
假免狀ヲ授ク
医制發行後凡ソ十年ノ間ニ開業ヲ請フモノハ
左ノ試業ヲ経テ免狀ヲ受クヘシ
甲 物理学化学大意
乙 解剖学大意
丙 生理学大意
丁 病理学大意
戊 藥劑学大意
己 内外科大意
即今開業ノ假免狀ヲ得メルモノト雖モ三十歳
以下ノ者ハ毎三年必ス右ノ試業ヲ遂ケ其免狀
ヲ受クヘシ但シ篤志ノモノハ年齢ニ拘ハラス

試業ヲ請フヿヲ得ヘシ
産科眼科整骨科及ヒ口中科等專ラ一科ヲ修ム
ル者ハ各其局部ノ解剖生理病理及ヒ手術ヲ授
シテ免狀ヲ授ク
種痘ハ天然痘病理治方ノ概畧及ヒ牛痘ノ性狀
種法ヲ心得タル者ヲ撰シ假免狀ヲ與ヘテ施術
ヲ許ス 種痘規則別冊アリ
第二十條
開業免狀ヲ所持セスシテ病客ニ処方書ヲ與ヘ手術
ヲ施スモノハ科ノ軽重ニ應シテ其処分アルヘシ
第二十一條
医師タルモノハ自ラ藥ヲ鬻クコトヲ禁ス医師ハ処
方書ヲ病家ニ付與シ相當ノ診察料ヲ受クヘシ

国立公文書館
National Archives of Japan

（當分）診察科ハ合地方ノ貧富路程ノ遠近等ニ使テ自ラ差別ナキヲ得ス故ニ先ツ衛生局ニテ其大畧ヲ取調地方官ト協議シ便宜ニ應シテ之ヲ定ムヘシ

外科眼科産科口中科等ハ手術ノ大小難易ニ由テ其科ヲ定ムヘシ

時宜ニヨリ診察科手術科ヲ増減スル時ハ衛生局地方官協議ノ上文部省ノ許可ヲ得テ之ヲ報告スヘシ

二等医師ハ顧ニヨリ藥舗開業ノ假免狀ヲ授テ調藥ヲ許ス

調藥無帶ノ医師ハ他医ヨリ処方書ヲ授スルコトヲハ丁寧ニ調合シ毫モ私意ヲ加ヘス第四十一條第四十三條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條及ヒ第四十九條ノ規則ヲ守リ藥舗主ノ所業ニ殊ナルコトナカルヘシ

調藥無帶ノ医師ハ処方書調劑ノ外ハ藥種ノ販賣及ヒ賣藥（凡藥散藥膏藥煉藥等ノ如キ調劑ニシテ医家ノ方箋ニヨラス諸人ノ需ニ應シテ販賣スルモノヲ云）ヲ禁ス

第二十二條

処方書ニハ病人ノ氏名年齢病名藥劑分量用法ヲ記シ其下ニ年月日及ヒ医師ノ氏名ヲ書シテ印ヲ押スヘシ

第二十三條

医師私ニ藥劑ヲ鬻キ或ハ藥舗ニ通シテ奸利ヲ謀ルモノハ開業ヲ禁シ文部省及ヒ地方廳ニテ其事由ヲ

報告スヘシ

第二十四條

施治ノ患者死去スル時ハ医師三日内ニ其病名経過ノ日數及ヒ死スル所以ノ原由ヲ記シ虫脱症窒息等ノ類ヲ云フ医師ノ氏名年月日ヲ附シ印ヲ押ノ医務取締及ヒ病家ニ出スヘシ

第二十五條

医師悪性流行病（第秋私虎列刺天然痘麻疹ノ類ヲ云フ）アルコトヲ察セハ急速医務取締及ヒ區戸長ニ届クヘシ（流行病豫防法別冊リアリ）

第二十六條

医師他所ニ轉シテ開業セント欲スル者ハ所持ノ開業免状ヲ其地方ノ医務取締及ヒ區戸長ニ出シテ更ニ許可ヲ受クヘシ若シ医務取締區戸長其許可ヲ怠リ或ハ之ヲ拒ム時ハ其医師ヨリ衛生局地方官ニ訴フヘシ

第二十七條

病家診察料ヲ送ラサル時ハ医師ノ申立ヲ以テ医務取締及ヒ區戸長之ヲ取立ヘシ

第二十八條

産科医ハ生児ノ男女死生及ヒ年月日ヲ記シテ医務取締ニ出スヘシ

但シ流産モ三ヶ月以上ノ者ハ右ニ同シ

（當分）内外科ヲ論セス総テ産婦ヲ取扱フモノハ皆本條ニ準ス

第二十九條

産婆ハ四十歳以上ニシテ婦人小児ノ解剖生理及ト病理ノ大意ニ通シ所就ノ産科医ヨリ出ス所ノ実験證書（産科医ノ眼前ニテ平産十人難産所持スルモノ二人ヲ取扱ヒタルモノ）ヲ撿シ免状ヲ與フ

（當分）従来営業ノ産婆ハ其履歴ヲ質シテ假免状ヲ授ク但シ産婆ノ謝料モ第二十一條ニ仝シ

（医制発行後凡ソ十年ノ間）ニ産婆営業ヲ請フモノハ産科医（或ハ内外科医）ヨリ出ス所ノ実験証書（本條ニ同）シヲ撿シテ免状ヲ授ク若シ一小地方ニ於テ産婆ノ業ヲ営ムモノナキ時ハ実験證書ヲ所持セサルモノト雖モ医務取締ノ見計ヲ以テ假免状ヲ授クルヿアルヘシ

第三十條

産婆ハ産科医或ハ内外科医ノ差畜ヲ受クルニアラサレハ妄ニ手ヲ下スヘカラス然レモ事実急迫ニシテ医ヲ請フノ暇ナキ時ハ自ラ之ヲ行フコトアルヘシ但シ産科器械ヲ用ユルヲ禁ス且ツ此時ハ第二十八條ノ規則ニ従ヒ其産婆ヨリ医務取締ニ畜クヘシ

第三十一條

産婆ハ方藥ヲ與フルヲ許サス

第三十二條

鍼治灸治ヲ業トスルモノハ内外科医ノ差畜ヲ受クルニアラサレハ施術スヘカラス若シ私ニ其術ヲ行ヒ或ハ方藥ヲ與フルモノハ其業ヲ禁シ科ノ軽重ニ應シテ処分アルヘシ

第三藥舖附賣藥

第三十三條

東京府下ニ司藥場ヲ設ケ便宜ノ地方ニ其支場ヲ置キ藥品檢査及ヒ藥舖賣買等ノ事ヲ管知ス司藥場章程別冊アリ

第三十四條

調藥ハ藥舖主藥舖手代及ヒ藥舖見習ニ非レハ之ヲ許サス

但シ藥舖見習ハ必ス藥舖主若クハ手代ノ差圖ヲ受ケ其目前ニテ調藥スヘシ

第三十五條

藥舖見習ハ十五歲以上ノ者ヲ撰ヒ其藥舖主ヨリ医務取締ニ屆ケテ之ヲ用フヘシ

第三十六條

藥舖手代ハ二十歲以上ニシテ數學外國語學羅甸語學處方學義ニ物理學化學植物學動物學鑛物學ノ大意ノ試業ヲ遂ケ免狀ヲ受クヘシ

現今其用ヲ雜スルモノハ學科ノ試業ヲ要セス

医制發行後凡ソ十年ノ間ニ藥舖手代タラントスルモノハ算術物理學化學ノ大意及ヒ藥物ノ名目品類ヲ試問スヘシ

第三十七條

藥舖主タル者ハ從來所就ノ藥舖主ヨリ本人ノ二ケ年以上藥舖手代ヲ勤メタル狀ヲ具ヘ医務取締ヨリ衛生局ニ申達シ左ノ試業ヲ經テ藥舖開業ノ免狀ヲ受クヘシ

甲 實用化學
乙 藥劑學大意
丙 製藥學
丁 毒物學

但シ製藥學校ニテ卒業證書ヲ得タルモノ又ハ医学卒業証書ヲ所持シテ藥舗主或ハ手代タラントヲ欲スル者ハ此例ニアラス

當分 從來藥舗主タルモノハ試業ヲ要セス履歴明細書ニ照準シテ假免状ヲ授ケ開業ヲ許ス

医制發行後凡ソ十年ノ間ニ藥舗開業ヲ願フモノハ左ノ試業ヲ経テ免状ヲ受クヘシ

甲 算術
乙 物理学化學大意
丙 藥劑學大意
丁 処方學大意

第二十八條

藥舗主及ヒ手代ノ試業ハ衛生局司藥場ノ内一人ヲ以テ會長トシ司藥場付屬ノ吏員医務取締地方ノ醫師藥舗主等五人乃至七人ヲ撰テ試業掛トシ毎年二次之ヲ開クヘシ

試業ノ時日場所ハ三ケ月前文部省ヨリ報告スヘシ

第三十九條

新タニ藥舗ヲ開クント欲スルモノハ藥舗開業免状及ヒ行状證書從來所住ノ地方官ヨリ出スモノ藥舗主或ハ二年以上ヲ医務取締ニ出シテ其檢印ヲ受ケ屬籍姓氏名年齢履歴ノ明細書ヲ添ヘ地方官ニ出シテ許可ヲ受クヘシ

医務取締其檢印ヲ怠リ或ハ拒ム時ハ衛生局ニ訴フルヲ得ヘシ

第四十條

免狀ナクシテ藥劑ヲ調合シ或ハ藥種ヲ販賣スルモノハ科ノ輕重ニ應シテ処分アルヘシ

第四十一條

藥舗ニハ精微ノ秤量器及ヒ日本藥局方中ノ藥品純精ナルモノヲ撰テ之ヲ備ヘ欠乏アラシムヘカラス

日本藥局法別冊アリ

第四十二條

藥舗ハ衛生局司藥場ノ吏員不意ニ檢驗スルコトアルヘシ

但シ賣藥敗藥ヲ貯蓄スルモノハ其事故ヲ糺シテ相當ノ処分アルヘシ

第四十三條

藥舗主及ヒ手代ハ必ス医師ノ処方書其外一定普通ノ藥方ヲ記シテ需ムルモノニアラサレハ調合スルヲ許サス

但シ單味ノ品ハ劇藥ニアラサレハ医師ノ外タリトヒ販賣自由タルヘシ

第四十四條

医師ヨリ投スル所ノ処方書ハ其方ニ從テ精細ニ調合シ毫モ私意ヲ加フヘカラス

第四十五條

藥舗ニテ調合シタル藥劑ハ病人ノ姓名藥名分量用法及ヒ年月日ヲ記シ印ヲ押シ之ヲ與フヘシ

第四十六條

處方書ハ順次ニ其本書ヲ貯ヘ一ケ月分ツヽ一冊トシ二十年ノ間紛失スヘカラス若シ藥舗主病死或ハ事故アリテ藥舗ヲ廢スル片ハ其処方書ヲ東子テ医務取締ニ出スヘシ

但シ調藥兼帶医師自箇ノ処方モ亦右ニ準ス

第四十七條

劇藥ハ司藥場檢印ノ品ニアラサレハ調合及ヒ販賣スルヲ許サス

但シ劇藥ニ限ラス品ニヨリテハ檢査スルヿアルヘシ

當分檢印ノ手數ヲ不用トイヘ𪜈劇藥ハ精々注意イタシ純良ノ品ヲ貯フヘシ若シ藥舗ニ於テ真贋純雜ノ監別難致品ハ司藥場ニ願出檢査ヲ受クヘシ尤同場ヨリ直チニ其藥名ヲ指シ為指出檢査スルコトアルヘシ

第四十八條

劇藥ハ医師ノ処方書ニ據テ調合スルノ外ハ同業ノ者化学家及ヒ調藥免許ノ医師ヨリ其需要ノ旨趣ヲ詳記シタル記書ヲ以テ求ムルニアラサレハ決メ販賣スルヲ許サス

第四十九條

右ノ規則ニ準ヒ劇藥ヲ販賣スル時ハ其品ヲ固封シ印ヲ押シテ表書藥名ノ傍ニ毒ノ一字ヲ大書スヘシ

劇藥販賣ノ節ハ藥名分量年月日及ヒ買人ノ氏名ヲ別帳ニ記シ買人ヨリ送ル所ノ記書ハ二十年間紛失

スヘカラス

第五十條

賣藥ハ其藥味分量功能用法及ヒ代價ヲ記シ地方廳ヲ經テ衛生局ニ出シ免許ヲ受クルモノニアラサレハ調製ヲ許サス

但シ藥味分量等有害ノモノ或ハ其功能書ニ照メ不當ナルモノハ調製賣賣ヲ禁シ或ハ之ヲ改正セシムヘシ

第五十一條　免許ヲ得スシテ賣藥ヲ製シ發賣スルモノハ藥方ヲ禁シ調劑ヲ没入シ科ノ輕重ニ應シテ其処分アルヘシ

第五十二條

賣藥家ハ衛生局或ハ司藥場ノ吏員等不意ニ來リ調藥ノ場ニ臨シテ檢査スルコトアルベシ若シ其檢査ヲ拒ミ或ハ隱匿スル等ノ所業アルモノハ賣藥ヲ禁シ相當ノ処分アルヘシ

第五十三條

配藥人（賣弘所取次所及ヒ賣子等ヲ總稱ス）ハ調藥師ヨリ其屬籍氏名年齢及ヒ開店ノ場所ヲ記シテ醫務取締ニ届クヘシ

第五十四條

凡ソ賣藥ハ調藥師并ニ配藥人ヲ合シテ一社ト見做シ調藥師ヲ社長ニ擬ス故ニ其社中贋藥敗藥ヲ鬻キ或ハ押賣スル等不正ノ所業アル片ハ藥方ヲ禁シ調劑ヲ没入シ科ノ輕重ニ應シテ其処分アルヘシ

以上五十四條

文部省回答　五院宛

去月中伺置候医制改正中第五十五條削除候ヲ支障筋有無意見可申出御掛合ノ趣致承知候右ハ目下可行儀ニ無之候間御削除相成差支無之候此段御答及ト候也 四月八日 文部

左院議按 内務課宛

別紙文部省伺医制改正ノ件審議候処右ハ昨年三月中創定以来三府ニ於テ徐々挙行ノ上差障候儀相改候趣ニテ自然実際宜キヲ得候儀ト存候間申請ノ通リ御聽許相成可然候依テ左按取調此段上陳候也 四月十二日 文部

五

四十九

八月十七日 八年

各地方衛生ニ関スル事項総テ内務省ヘ稟請セシム

内務省布達 府県ヘ

従来各地方管廳ニ於テ一管内限適宜ノ見込ヲ以テ衛生ノ事項施行候向不尠右ハ各地ノ景況ニ因リ素ヨリ小異同ナキヲ得ザル儀モ可有之候ハヽ自然彼此牙角ヲ生シ候テハ不都合ニ付自今衛生ニ関スル事項ハ総テ當省ヘ可伺出此旨相達候事 内務

但是マテ各管廳ニテ施行イタシ候衛生事項當省ヘ申稟不致分ハ早々取調更ニ可伺出事

八月十七日 翌十八日出